



在学中のワタシ★アクション！  
フィギュアスケートと学生生活、  
どちらも思いきり頑張りたい

特集01 **いま注目される研究**

特集02 **留学生と地域の交流で、  
いわてに新たなヒントを！**

ラボ★アクション！

キャンパスフレンズ・少林寺拳法部

KENDAI NEWS

ケンダイ広報局

卒業生のワタシ★アクション！



卒業生のワタシ★アクション!

栄養指導のエキスパートとして、  
人々の健康を支えていく





「ヒューマンインタフェース」をテーマに、さまざまな研究に取り組んでいる。

## ラボ★アクション!

# 先生たちの 研究の流儀

地域のシンクタンクであり、多彩な学部を擁する岩手県立大学には、個性豊かな先生がたくさんいる。彼・彼女らがどんな想いを抱き、日々どんな研究に取り組んでいるのか。その横顔に迫ってみたい。



これまでのセンシング技術を応用し、ドライバーの視線の動きを計測する「先端カーシミュレータ」。

ヒューマンインタフェース。プリマ先生の研究室はソフトウェアの構築からハードの製作までオールインワンで手がけているのが特徴で、研究機関や企業、行政などから依頼を受けたプロジェクトも多い。

「研究テーマのほとんどは与えられたもの。だけどそれをどうやって解決するかを考えるのが楽しい」とプリマ先生。どんどん進化していく分野だからこそ、常に学ぶ姿勢と柔軟な心を持つことが大切だと話す。

「岩手県立大学の学生は明るくて真面目。『研究で世の中をよくしたい』というまっすぐな思いを持っています。だけど、もう少し『あそび』があってもいいのかな」とプリマ先生。

「今は寄り道のように見えることが、未来のどこかでつながっているかもしれない。だからもつと肩の力を抜いて、いろんなことに興味を持ち、学んでほしいなと思います」

広い視野と柔軟な心で、人とコンピュータのよりよい可能性を広げていきたい。

「情報工学の分野は日進月歩。少し前まで最先端だったものが、すぐ古いものになってしまう。だからひとつのことを追究するより、その時々で求められるものをテーマに研究に取り組んできました」

流暢な日本語でそう話すプリマ先生は、インドネシア共和国の出身。母国の留学プログラムで来日し、1991年岩手大学工学部(現・理工学部)に入学。最先端の分野を学びたいと人工衛星で地球を観測する「衛星

観測システム」の研究室の門を叩いた。「希望者が多く競争率も高かったのですが『母国の未来を担う留学生』であることをアピールして、入れてもらいました」と懐かしむ。

大学院の博士前期課程では雨や洪水をシミュレーションする水文学を、博士後期課程では当時普及整備が進められていた細密メッシュ3D地形モデルを研究。「学士、修士、博士とテーマが全部違うんです」と笑うプリマ先生。修了後も助手として研究室に残るが、岩手県立大学ソフトウェア情報学部で、また新しい研究分野である「ヒューマンインタフェース」の教員を募集していると知り応募。2004年、講師として赴任した。

「ヒューマンインタフェースは、人とコンピュータの接点。例えば身体が不自由な人が視線の動きで文字を入力できるようにするなど、人間の細かな動きを読み取り、コンピュータに反映させる研究をしています」

未来を担う技術として注目を集める

## DATA

ソフトウェア情報学部  
プリマ・オキ・ディッキ・アルディアンシャー 准教授

インドネシア共和国出身。1991年に岩手大学工学部(現・理工学部)情報工学科に入学。同大学院工学研究科博士前期課程、母国の研究所職員を経て、2002年に同大学院工学研究科博士後期課程修了。岩手大学工学部の助手を務めた後、2004年に岩手県立大学ソフトウェア情報学部へ赴任した。主な研究テーマはヒューマンインタフェース。趣味は音楽で、自身もクラシックギターをたしなむ。家族と一緒に演奏を楽しむこともある。



自分が興味のある分野の授業は、  
将来につながるステップ。

保育士・幼稚園教諭を目指す太田原さん。ピアノの練習にも熱心に取り組んでいる。



STUDENTS Voice

自分のやりたいことや好きなことを見つけ、その実現に向かって頑張っている学生たちがいる。彼らが何を思い、どんな行動を起こしているのか。一人ひとりの「ワタシアクション!」をご紹介します。

フィギュアスケートを始めたのは6歳の時。「盛岡FSC」というクラブチームに所属している。大きな大会に出場してきました。優雅に見えるフィギュアですが、実際はとてもハード。しかし、練習したぶん上達するのが楽しくて、辞めたいと思ったことはありません。高校からはコーチとともにフィギュアを始めたばかりの子どもの指導。もともと子ども好きだったこともあり、「将来は子どもに関わる仕事をしたい」と思うようになりました。

岩手県立大学社会福祉学部に進学したのは、同じ環境で競技を続けられたこともありますが「保育士資格や幼稚園教諭免許を取得できる」のも大きな理由です。遠征で授業に出られない日があるなど学業との両立は大変ですが、友だちがノートを貸してくれたり、先生もサポートをしてくれるので心強いです。それに興味のある分野を専門的に学ぶのは楽しい。子どもの発達や成長を見据えた関わり方など、子どもたちへの指導、コーチの手伝いをしていて「なるほど」と実感することがたくさんあります。

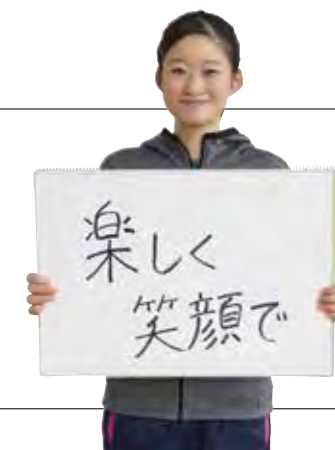
競技者としても充実していて、1年生にインカレ(日本学生氷上競技選手権大会)のBクラスで女子シングル2位となり、目標だった「希望郷いわて国体冬季大会」にも出場。地元の大声援を浴びながらリンクに立った時は感動しました。

将来のための学びも、フィギュアも、私にとって大切なもの。だから両方頑張りたい。大変だと思う日もありますが、努力したぶん成長できると思うから、今とても楽しいです。

## ワタシ★アクション!

社会福祉学部2年  
太田原 春菜 Haruna Ohtawara

1996年生、盛岡市出身。盛岡中央高校卒業。2015年に岩手県立大学社会福祉学部人間福祉学科入学。フィギュアスケート選手として大会などに出場する一方、子どもたちのフィギュアスケートも指導している。大学では子どもの発達や教育について学んでいる。好きな食べ物は、時々「ごほうび」で食べるスイーツ。特にキャラメル味、杏仁豆腐味のものに目が無い。



..See You  
Next  
Action!



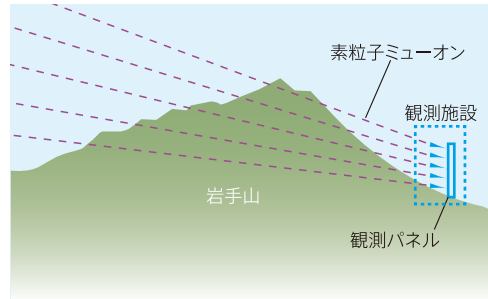


# 学際的な研究を通じて、日本をリードする先進的な研究を!

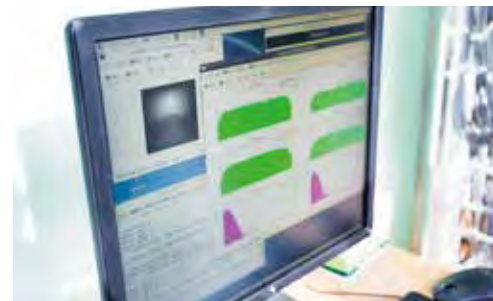
平成28年10月、岩手県立大学で新しい研究が始まった。  
これは素粒子ミュオンを活用した火山観測であり、国内でも先進的な取り組みだ。  
これまで様々な研究活動に力を入れてきた岩手県立大学。  
新たな研究に挑戦することは社会や地域への還元にもつながる。  
今回は、他学部や他大学との連携によるいくつかの学際的な研究に焦点をあてながら「知の拠点」としての一面を紹介しよう。



観測施設外観。



岩手山の調査方法のイメージ図。



素粒子ミュオンによる岩手山観測データ。



観測施設内部。パソコン1台と両脇に観測パネルがある。



## いま注目される研究① 素粒子ミュオンによる岩手山の火山観測 3大学とKEKとの共同研究

3大学とKEKが共同して素粒子ミュオンを用いた岩手山観測を開始。12月には初めて研究チームによるワークショップを開催。

岩手の火山防災に役立つ「素粒子ミュオン」による岩手山観測

御嶽山、箱根山、阿蘇山など、最近活発化しているように見える、日本の火山群。岩手のシンボルであり、大学のキャンパスからもほど近い岩手山(2038m)も活火山の一つだ。実際に岩手山は平成10年から15年にかけて火山性地震や地殻変動が起こり、噴火の危機に見舞われたことから、地震計や監視カメラによる監視が24時間体制で行われている。

しかし、これで万全の観測データが揃っているわけではない。火山防災に直接的に影響するマグマの位置、体積、上昇速度などの観測ができないため、過去の噴火実績と経験から火山活動の推移を想定するしかないのが現状だ。

そこで平成27年から岩手県立大学では、宇宙線から発生する素粒子ミュオン(以下、「ミュオン」)を用いて、岩手山の内部の構造調査を行うことを計画。物質を通りやすいミュオンの性質を生かして内部を「透視」することにより、現状のマグマの位置や様子をリアルタイムで捉えると同時に、過去の活動の痕跡を探ることが目的だ。加えて、これまでも岩手山周辺で行っている水質調査と合わせ、総合的に観測を行うことにより、より正確な噴火予知と防災のための助言に役立てたいと考えている。

### 3大学とKEKの共同研究で火山活動の全容解明に迫る

このミュオンを用いた岩手山観測には、鈴木厚人学長がかつて機構長を務めていた高エネルギー加速器研究機構(KEK)、岩手大学、首都大学東京が連携。KEKから測定器を借り受けて、岩手山の麓(国立岩手山青少年交流の家)に設置し、平成28年10月から観測をスタート。現在、測定器は1基だけだが、いずれは複数基を用いて、立体的に内部構造が見られるようにするという。

火山学の専門で、岩手山の湧水を調査してきた総合政策学部の伊藤英之教授は「観測は始まったばかりですが、ミュオンで山の成り立ちを解明し、マグマによる内部の密度変化が確認できるようにすれば、噴火予知も可能です」と力を込める。ミュオンを使った火山内部のイメージングを行う技術は、浅間山や硫黄島などでも成果を上げており、岩手山ではどのようなデータが現れてくるのか、今後の観測結果に期待が寄せられている。

「ミュオンは、エネルギーや環境、医学など、様々な分野に応用されています。ミュオンを用いた岩手山観測は長期間の取り組みですが、火山防災に必ず良い結果をもたらすはず」と、鈴木学長。研究成果が現れるのはまだ先だが、岩手山の火山活動の全容が明らかになる日はそう遠くはないはずだ。

ミュオンとは、物質を細かく分割した最小単位[素粒子]の一種。宇宙から地球に降り注ぐ宇宙線が大気に衝突して生まれる。物質を通り抜けやすいのが特徴で、密度が高い物質を通ると数が減ったり方向が変わったりする。





この聴診演習システムは、聴診器を看護師役の学生が持ち、患者役の学生の胸部に位置を変えながら当てていき、呼気音・吸気音を聴き取るもの。その際、看護師役の学生が聴診器から聴く音は、パソコンと接続されたイヤホンから再生される呼吸音。患者役の学生の呼吸状態に同期し、アセスメントしようとする疾患に特有の呼気音・吸気音が聞こえるようにプログラムされているのだ。

「患者役の胸部などフロント部分に6カ所の呼吸状態の判断ポイントを設定することにより、胸式呼吸でも腹式呼吸でも呼吸状態を正確に判断できます」と、村田教授は解説する。また、聴診器の正しい当て方とアセスメントを学べるだけでなく、看護師役の学生が患者に接する時の表情や態度もビデオに録画し、クラウドに蓄積。学生がそれぞれのフィジカルアセスメントを振り返り、自主学習できる機能も将来的に実現する予定だ。

今回開発したシステムは従来の経費の1/5以下を目指しており、マネキンタイプのシミュレータがなくても聴診技術を学ぶことができる。他大学の指導者や看護師からも高評価を得ており、全国の教育現場への導入が期待されている。

聴診器の正しい当て方だけでなく将来的には、患者への接遇態度も自主学習可能に

## Support System

### ワンストップサービスで教員の研究活動をサポート [研究・地域連携室の取り組み]

今回、2つの研究事例を紹介したが、大学側のサポート体制はどうなっているのだろう。岩手県立大学では、研究相談、科研費や特許申請など研究に関する申請支援、研究に関する経費の管理、各種研究に関する研修やセミナーの実施、学内外の研究のマッチング等を行う専門部署として、平成28年度から新たに「研究・地域連携室」を設置した。

昨年度までは、研究支援と地域連携が分かれていたため、研究に関する窓口が2つあったが、今年度の改組によって、研究支援、地域連携、産学官連携の一体化を図った。これにより、研究活動をさらに加速化するワンストップサービスの環境が整ったことに加え、さまざまな部署の担当職員が協働することで、多様な視点から教員の研究をサポートできる体制となった。

このようにサポート体制を強化しながら、地域に貢献する研究活動を後押ししている。



## 学際的研究 Pick Up!



### 岩手県沿岸地域における水産加工流通業の競争力強化と雇用の拡大

総合政策学部・宮古短期大学部・水産総合研究センター・宮古市・盛岡市による共同研究

大震災からの再建のプロセスにおいて沿岸地域の地場産業である水産業を、より高い競争力を備えた産業に再生させることが本研究の目的である。そのために漁協や水産加工流通業者等を対象に、生産コスト、販売先、雇用の実態などに関する調査を実施し、経営学の視点から競争力強化⇒収益増⇒雇用増を達成するための諸課題を分析した。その結果、企業間連携の強化を通じた販路や製法の共有によるコスト削減、アジア地域を中心とした海外市場への展開、さらに雇用増が図られ、着実な成果をあげられた。

(総合政策学部:新田義修准教授/宮古短期大学部:植田眞弘教授)

研究内容の詳細はこちらをチェック!

岩手県立大学研究関連情報

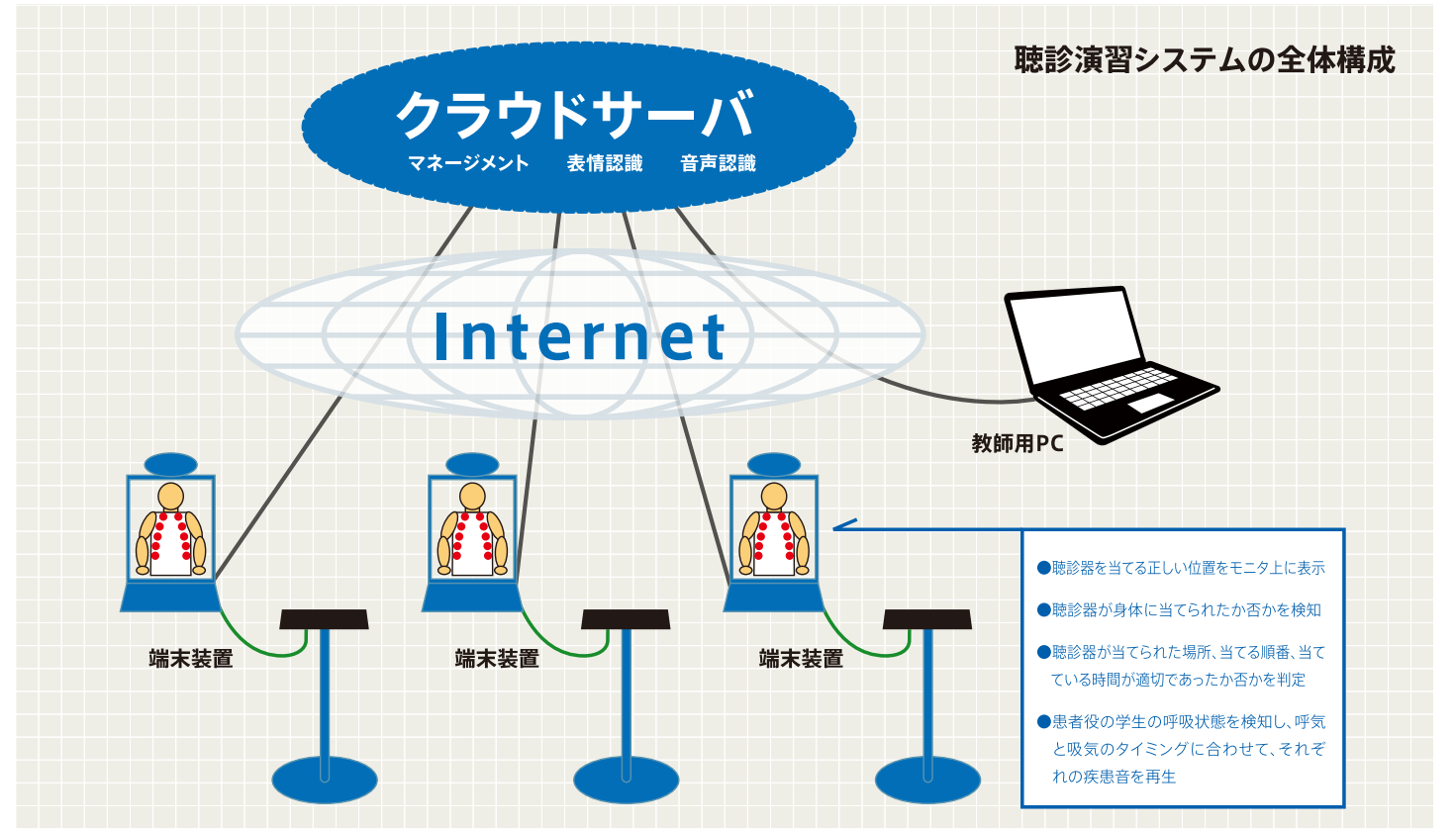
検索

### ILC建設に伴う外国人の医療環境整備に向けた取り組みに関する研究

盛岡短期大学部・社会福祉学部・看護学部・岩手県政策地域部科学ILC推進室による共同研究

北上山地が国際リニアコライダー(ILC)の国内建設候補地に選定されたことに伴い、外国人研究者・技術者とその家族を受け入れるため、医療を始めとした生活環境を整備することは岩手県の課題である。本研究では、県内に居住する外国人を対象とし、外国人に対する医療環境の現状と課題を調査。その結果、①医療通訳派遣システムの検討②外国人向け医療情報の検討③医療機関・緊急医療・薬局等の多言語化が重要であり、日本と外国との医療文化の相違を外国人、医療機関ともに認識する必要性を提案した。

(盛岡短期大学部:石橋敬太郎教授、熊本早苗准教授、吉原秋准教授/社会福祉学部:細越久美子准教授/看護学部:蛸崎奈津子准教授、アンガホッフア司寿子講師)



看護師役の学生が聴診器を持ち、患者役の学生の呼気音・吸気音を聴き取る。



正しい位置や順序を確認しながら聴診技術を習得する。



「聴診演習システム」を開発した看護学部の三浦奈都子講師(左)とソフトウェア情報学部の村田嘉利教授(右)。

看護演習の教育現場を変える  
画期的な「聴診演習システム」

看護学部の演習の一つに、聴診器を当てる際の位置や順序などを学ぶ授業がある。これには、模擬患者として呼吸音を再現するマネキンタイプのシミュレータを使用するのが主流だが、1体数百万円と高価であり、全学生に体験させるには時間も手間もかかるという問題点があった。しかも、体験時間が限られるため、学生が聴診技術を得しようとしても反復して学ぶことさえ難しい状況だった。

かねてから「安価で利用しやすい聴診演習システムを作れないものか」と考えていた看護学部の三浦奈都子講師と遠藤良仁講師は、教員の研究活動などを支援している地域連携室(現研究・地域連携室)主催の

知財セミナーに参加。同室のマッチングにより、各種センサを利用した研究を手がけるソフトウェア情報学部の村田嘉利教授と連携し、聴診演習システムの共同開発に取り組むことになった。

「聴診の仕方だけでなく、問診・打診・視診・触診といった一通りのフィジカルアセスメントを習得してもらうことが本来の目的。患者に問いかけをする看護師の表情や接し方なども重要になりますから、それに対応できるシステムを目指しました」と、三浦講師。看護学部の要望を聞いた村田教授は、身体の各関節の位置を検出できるモーションセンサデバイス「Kinect(キネクト)」を活用したシステムを提案。三浦講師、遠藤講師の意見を取り入れながら、システムの検証を重ねた。



# Campus Friends

Vol.10

## 少林寺拳法部

県立大学のサークルや同好会、  
学生会活動を紹介します「キャンパスフレンズ」。  
生き生きと活動する学生たちの様子をチェックしてみよう。



### DATA

#### 少林寺拳法部

平成22年創部、部員数約15名。初心者でも基礎から学べる上、護身術を身につけることもできるため、女子部員も多い。拳法には「剛法」と「柔法」の技があるが、両法を組み合わせで演じるものを『演武』といい、少林寺拳法でいう「大会」とは、この演武の発表会のこと。新入生歓迎会では部紹介のパフォーマンスとして『演武』を披露している。

〔練習日時〕火曜日・水曜日・金曜日の18時～21時  
〔練習場所〕体育館ブレイルーム、サブアリーナなど



少林寺拳法部の部員たちで決めポーズ！  
かっこよさに惹かれて入部する部員も多いという。

尊重し、共に成長するという調和の精神を大事にしている。「私の好きな教えは、自己共楽。自分だけ強くなればよいのではなく、互いに高め合うことで共に幸せになる、という考えに共感します」と岩淵さん。自分を磨くための多くのヒントが得られる、少林寺拳法。入部の門を叩けば、新たな自分に出会う道が拓けるかもしれない。

「エイッシャー」と鋭い気合いが発せられ、心地よい緊張感がみなぎる、少林寺拳法の練習風景。男性部員が多いかと思いきや、約半数は女性部員。柔軟体操に始まり、突き、蹴りの練習、技の練習と続き、週3回みっちり3時間汗を流す。少林寺拳法部が創立されたのは平成22年、まだ6年目という若いサークルだが、外部から講師を招いて熱心に練習を行っている。

「激しく組み合わせイメージが強く、経験者が多いように思われがちですが、部員のほとんどが初心者。私自身も体力づくりが目的でしたし、護身術を身につけるために入部する女子学生も多いですよ」と話すのは、部内で唯一段位を持つ代表の岩淵裕史さん（フトウェア情報学部3年）。少林寺拳法の体術には、突きや蹴りなどの攻撃に対する守備反撃方法の「剛法」と、腕をつかまれたり、背後からの攻撃に対する抜きや投げによる反撃方法の「柔法」などがあるが、特徴的なのは「柔法」だと岩淵さんはいう。「身体能力の高い人なら剛法はすぐ覚えられるのですが、柔法は力任せにはいけません。人体の弱い部分を探りながら、どつやたら技を外せるか、試行錯誤するところが面白いんです」。

強さを追求するだけでなく、  
相手も自分も共に高め合う





留学生も参加したフェアウェルパーティーの様子。みんな生き生きと学生生活を楽しんでいる。



国内外の研究者や学生、教職員の宿泊施設として開設した「IPUゲストハウス」。



花巻市文化会館で外国人の視点から花巻観光について発表した留学生。

## 特集 02 Features02

# 留学生と地域の交流で いわてに新たなヒントを!

昨年、中国の大連交通大学と「学生交流に関する覚書」を締結してから10年の節目の年。留学生から得る国際的な感覚は貴重。本学では留学して来た学生の地域との交流もサポート。インバウンドをキーワードに留学生と岩手をつなぐ輪が広がり始めている。



花巻青年会議所のメンバーと人気のたい焼きを味わう、留学生、蘭天陽(ラン・テンヨウ)さんとSUB-R-PA CHAYANON(サブアーパー・チャヤノン)さん。2人ともソフトウェア情報学研究科で学んでいる。

### 【大連交通大学との国際提携と交流の歩み】

■平成15年  
岩手県立大学と大連交通大学との「国際学術交流協定」を締結。

■平成17年  
「学生交流に関する覚書」を締結。大連交通大学・ソフトウェア学院から本学のソフトウェア情報学部へ留学生の受け入れを開始。

■平成20年～24年  
大学主催の短期海外研修(中国語・中国文化コース)を大連交通大学・国際文化交流学院において実施(のべ24名の学生を派遣)。

■平成27年  
「学生交流に関する覚書」を締結してから10周年。大連交通大学・ソフトウェア学院の黄院長や留学生のOBを招き、記念式典を挙げる。

### 【花巻青年会議所からのメッセージ】

花巻市のインバウンド対策として留学生の皆さんと意見交換をしましたが、我々が「面白い」「楽しい」と思うことと留学生の視点はずいぶん違い、とても勉強になりました。観光情報の収集から観光プランの内容まで、アドバイスも多岐にわたり、今後の観光に活用できるヒントがいろいろありましたね。これまで岩手県立大学と連携することがなかったのですが、これを機会に学生の知恵とパワーを借りて、イベントなどを盛り上げていければうれしいです。



笹山 明さん  
(地域創生委員会委員長)

交換留学や海外派遣を通し、互いに理解を深めながら、広く国際的視野を育む

グローバル化時代に対応できる人材育成を見据え、岩手県立大学では開学間もない頃から海外の大学と「国際学術交流協定」を結び、留学生や特別聴講生等の受け入れ、本学の学生の海外派遣など、幅広く国際交流活動を行ってきた。

なかでも、中国の大連交通大学とは、平成15年に「国際学術交流協定」を締結。これまで留学生受け入れや海外派遣など、密な国際関係を築いてきた。昨年は学生交流開始から10周年を迎え、大連交通大学・ソフトウェア学院からの留学生は今年で約60名。そのうち本学のソフトウェア情報学研究科(大学院)に進み、学びを深める学生も少なくない。一方、本学でも平成27年11月に、国内外の

研究者や学生、教職員が宿泊できる「IPUゲストハウス」を開設し、これまで以上に教育研究活動の交流が活発に行えるようバックヤードの環境を整えた。

#### 留学生の視点から

#### 地域の観光活性にアドバイス

去る10月23日、本学の留学生が花巻市文化会館で、外国人の視点から考える花巻観光について発表を行った。これは花巻青年会議所がインバウンド対策として主催した「Fly high 新たな希望」というもの。6月に岩手県内の留学生に花巻の参加型観光プランを体験してもらい、その時の検証結果をまとめ、発表のステージに立った。  
6月の体験の際は、本学を含む15名の留学生が参加し、ラフティングや伝統工芸、温泉などを体験。今回の発表者の一人である留

学生の蘭天陽(ラン・テンヨウ)さんは、SNSに投稿したくなる撮影ポイントを意識した観光プランづくりと、無料で使えるミニ環境の整備、外国人にもわかりやすく乗りやすい交通環境の改善などを訴えた。蘭さんは大連交通大学から留学後、そのまま本学の大学院へ進学した一人。「大学院で留学生の岩手観光を支援するシステム開発に取り組んでいることもあり、タイムリーな企画でした。私たちの助言が少しでも役に立つとうれしいですね」と話す。

今回は観光というテーマだったが、留学生が地域の人々と交流することで、新たな視点やヒントを得られる分野はまだまだあるのではないだろうか。あらゆるものづくり産業において、岩手と海外との直接取引が拡大しつつある今、グローバル化はとて身近なこと。留学生との交流は、新たな飛躍を求める地域にとって大きなメリットをもたらすはずだ。





**滝沢・宮古キャンパスで大学祭!**  
 10月29、30日の2日間で大学祭を開催!滝沢キャンパス「IPU Festa 2016」の今年のテーマは「結(むすび)〜ここから始まる絆(つながり)がある〜」。人と人が手を取り合って新たな絆を生むきっかけとなる大学祭にしたいという想いが込められています。大学祭では、「限界への挑戦」など趣向を凝らしたイベントや模擬店、アーティストライブ、ステージイベントを開催。約9,000人ももの来場者が訪れ、活気あふれる大学祭となりました。同日はオープンキャンパスも開催し、多くの高校生に大学を身近に感じていただきました。一方の宮古キャンパス「蒼翔祭」でも恒例のお花屋敷やビンゴ大会を開催し、約500人の来場者を盛り上げました。



**被災した地域の実力になりたい!**  
 8月30日に発生した台風10号。岩手県内各地で土砂崩れや冠水など甚大な被害が出たため、本学ではいち早く9月6日から災害ボランティアへ出発。宮古市や久慈市、岩泉町を訪れ、家屋の泥だしや家財の片付けを行いました。ボランティアは10月15日まで継続し、通算19日間で教職員及び学生のべ250名が参加。地域の方々からはお礼とともに若い力は自分たちのやる気にも繋がると言っていました。今後は社会福祉協議会やNPO法人「いわてGINGA-NET」と連携し、学生ボランティアによるサロン活動の実施など被災地域のコミュニティ支援に取り組んでいきます。



**全日本学生フォーミュラ大会にて総合優勝!**  
 9月6日から10日に開催された第14回全日本学生フォーミュラ大会にて本学の学生4名を含む岩手連合チーム「SIFT」が電気自動車(EV)部門で総合優勝しました!岩手連合チームが全日本学生フォーミュラ大会に出場するのは今回が2回目。昨年度は惜しくも走行競技前に実施される車検を通過できずでしたが、今回は改良を加え、見事車検を突破。その後、走行競技に進み、総合優勝を果たしました。



**ETロボコン2016東北地区大会を突破し、チャンピオン大会へ!**  
 岩手県立大学ソフトウェア情報学部のチーム「Monolith(モノリス)」が9月10日に開催されたETロボコン2016東北地区大会に出場し、デベロッパー部門アドバンスクラスで総合優勝しました!東北地区大会を突破したMonolithは11月16日に横浜で開催されたチャンピオン大会(全国大会)に出場し、入賞は逃したものの次回への大きな手ごたえをつかみました。

**第1回就職キックオフガイダンスを開催**  
 10月5日に第1回就職キックオフガイダンスを開催しました!ガイダンスには約400名の学生が参加し、会場である講堂は満員に。キャリアセンターから最新の就職事情や就職活動スケジュールなどの説明を行いました。いよいよ就職活動への準備が始まります。

**選手団サポートボランティアとして 希望郷いわて大会へ 選手団とともに過ごした貴重な2日間**  
 10月22日から24日まで開催された希望郷いわて大会(全国障害者スポーツ大会)の選手団サポートボランティアとして約90名の学生が運営に参加しました。大会に向け5月から準備を重ね、当日は手作りの横断幕でお出迎え。各県・市町村ごとに作成した横断幕には選手の皆さんも喜んでいました。会場では、blanketを配ったり、お弁当を配ったり、車椅子を押したりと様々な形でサポート。参加した学生は「選手の皆さんの少しでもお役に立ちたいです」と話していました。数十年に一度の貴重な経験となりました。

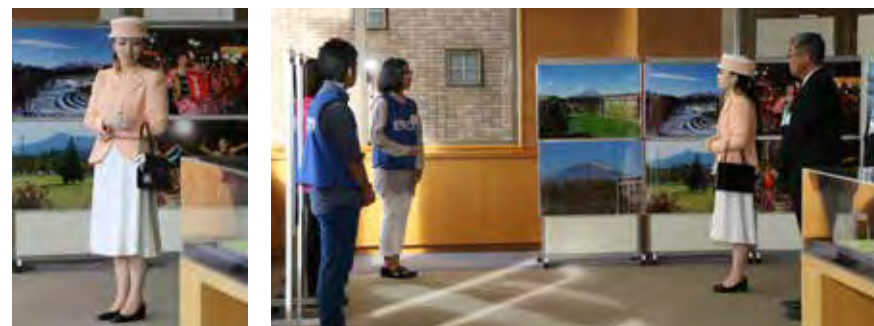


**アントレプレナーシップ(起業家精神)の育成を目指して**  
 IPUビジネス・クリエーションセミナー2016の集大成としてビジネスプラン発表会を11月10日に開催。本セミナーは鈴木学長の発案のもと、今年度初めて実施し、学生のアントレプレナーシップ(起業家精神)の育成を目指します。今回参加したのは10名の学生。9月に2泊3日の合宿形式の研修を行い、約2ヶ月間で「事業計画書(ビジネスプラン)」を作成しました。今年度の最優秀賞は総合政策学部の学生2名による「盛岡をアートであふれる町にする」という企画が選ばれました!

**三笠宮瑤子女王殿下が御来学**



三笠宮瑤子女王殿下が10月9日に希望郷いわて国体及び東日本大震災の御視察のため来学されました。鈴木学長から本学の概要について御説明の後、3名の学生から本学のボランティア活動など震災に関する取り組みについて御報告しました。三笠宮女王殿下は優しく微笑みながら学生の報告に耳を傾けていらっしゃいました。





- 故 清水 韶光 様(遺贈)  
 高橋 誠幸 様  
 矢田 親成 様  
 三浦 大介 様  
 阿崎 孝好 様  
 千葉 昭平 様  
 高橋 秀夫 様  
 池田 幸隆 様  
 牛崎 海秀 様  
 畠山 敏美 様  
 西田 美緒 様  
 内田 聡 様  
 高橋 宏 様  
 細田 誠 様  
 吉田 浩 様  
 深田 稔(北水会) 様  
 西野 代良 様  
 佐々木 勝広 様  
 片桐 康宏 様

社説高連印刷株式会社  
 代表取締役

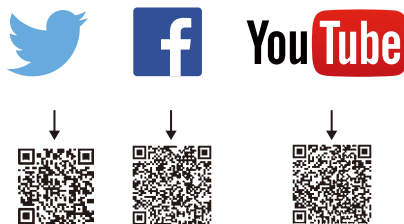
※ご寄附をお寄せいただいた皆様のうち、ホームページ等での公表について承諾いただいた方を掲載しております。

### 編集後記

大学は教育と研究が一体となって構成している場。本学は教育や学生生活のイメージが強くありますが、研究でも最先端で独創的な研究が数多く進められています。今回は先生方の協力のもと、念願叶いに関する特集を組むことができました。普段、先生方と研究に関して話をするとすぐ生き生きと丁寧な説明をしていただけます。難しい研究も分かりやすいため、聞いているだけで今後新しい何かに出会えそうでワクワクしてきます。その研究に対する熱意とエネルギーを読者の皆様にもお伝えしたいと特集にしました。研究分野でも本学の素晴らしさが伝われば幸いです。(企画室 築田)

### 岩手県立大学のホットな情報発信中!

岩手県立大学では、お知らせやイベント情報などをリアルタイムに発信するためTwitter公式アカウント【@IPU\_official】、Facebook、YouTubeで情報提供を行なっています。是非、ご覧ください。



# This is My OB&OG Voice Action!

大学で学んだことを自分の糧としながら、様々な分野で活躍する県立大学の卒業生たち。それぞれの職場や地域で頑張っている卒業生の「ワタシアクション!」をご紹介します。



患者さんと一緒に考え、一緒に改善に取り組む。一人ひとりに寄り添った指導を、心がけていきたい。

栄養指導を行うときは、缶ジュースに含まれる砂糖の量を実際に見せるなど、わかりやすい説明を心がけている水野さん。院内併設の保育所でも、前歴を活かして保護者に熱心に指導を行っている。

中学時代の陸上部の先生から「タイムを伸ばすためには、食事による体づくりが大事」と指導を受け、食の大切さを身を以て体験したことが、この道を目指したきっかけです。管理栄養士になることは、高校時代からの夢。故郷の人々の役に立ちたいという思いもあって、盛岡短期大学部の生活科学科食物栄養学専攻コースに進学し、卒業後は保育園で栄養士として勤務。働きながら管理栄養士の資格を取得して、昨年から未来の風せいわ病院に勤務しました。就職先の選択肢はいろいろありましたが、大学時代に学んだ臨床栄養学がとても面白く、「働くなら病院で」とずっと考えていたからです。

ここでの仕事は、入院中の患者さんと外来の患者さんに対する栄養指導が中心。朝食時と昼食時には、3人の管理栄養士で7つの病棟をくまなく回り、患者さんの様子をチェック。看護師からも病状や食事状況についてヒアリングをしています。難しいのは、一人ひとり抱えている病状が違うため、患者さんに合った栄養指導を工夫すること。こちらから一方的に行うのではなく、患者さんの共感を得ながら自発的に改善に取り組めるような指導を心がけています。臨床経験が少ないため未熟な点もいろいろありますが、その都度、患者さんに教えられることが多く、日々すべてが勉強です。

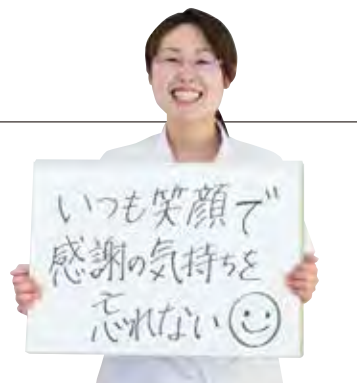
目標としているのは、管理栄養士の大先輩でもある栄養管理科長。トップとして栄養士や調理師をとりまとめ、患者さんやそのご家族に寄り添う姿は、私の理想です。仕事への揺るぎない意志と責任感をしっかりと持ち、人としても管理栄養士としても成長できるよう頑張っていきたいです。

## ワタシ★アクション!

水野 さつき Satsuki Mizuno

社会福祉法人智徳会 未来の風せいわ病院

1990年生。住田町出身。岩手県立大学盛岡短期大学部を卒業後、保育園で栄養士の実務経験を積みながら、管理栄養士の資格を取得。趣味は食べ歩きと神社巡りとマラソンだが、現在、看護学校の講師を務めているため、休日は授業の準備に追われることが多いという。



...See You Next Action!

岩手県立大学の魅力を発信すべく日々活動する学生団体、キャンパスアテンダント(CA)。そんなCAたちがお送りする、県大生の県大生による県大生の今を伝えるためのコーナーです。 (\*´▽`\*)

# ケンダイ★広報局

学生★企画



## 冬パちゃんねる

県大生は厳しい冬をどうやって乗り越えているのでしょうか。今回は4人の学生に冬のパーティー事情について焦点を当てて聞いてみました!

**みなに Question!** (どんな冬のパーティー? 場所は? 人数は? 大体の費用? コメント)

**A. ①喫茶店巡り&漢の鍋バ**  
 ②盛岡の喫茶店やイルミネーションのあるところ!夜は友人のアルバイトで鍋バ。③その日にバイトのない暇なメンバー5人~8人(看護男子's) ④喫茶店巡りで5000円くらい鍋バだけだと割り勘で1000円くらい! ⑤メンツが男子しかなくて行き当たりばったり(笑)!鍋も質より量を作る感じで適当に。無計画なところもみんなで馬鹿騒ぎして楽しいからオールオッケー。

**男子だけで冬パを満喫!**

**陸上部女子会!**

**A. ①陸上部女子会 ②キムチ鍋専門店 ③5人 ④1500円/人 ⑤初めての陸上部女子会でとても楽しかったです!このあとも何回か開催していて、今度はしゃぶしゃぶパーティーをする予定です!みんなでワイワイしながら楽しめます!**

**社会福祉学部2年 かやぼん**

**A. ①鍋バ ②友達の家 ③4人 ④2000円 ⑤仲良しのお友達と鍋バしました!食べることに夢中で写真は取り忘れてしまいました(笑)寒い日は温かいお鍋を食べながらおしゃべりするのもとっても楽しいですよ!**

**寒い日は、鍋とおしゃべり!**

**1年の疲れを吹っ飛ばせ!!**

**A. ①今年のお疲れさまで ②友人の家 ③7人 ④1万円 ⑤次はラーメンパーティーがしたい!!**



[Twitterアカウント]@IPUCA 岩手県立大学キャンパスアテンダント公式アカウント!! ※ツイート内容は大学の公式見解ではありません。大学生目線CAメンバーがつぶやきます!!ハッシュタグは#ipu\_ca